

令和5年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立朝日小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和5年4月18日(火)

4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語、算数とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【小学校 国語・算数 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	80.8	72.8	71.2
情報の扱い方に関する事項	2	66.9	64.4	63.4
話すこと・聞くこと	3	78.8	73.9	72.6
書くこと	1	18.9	26.1	26.7
読むこと	3	77	72.5	71.2

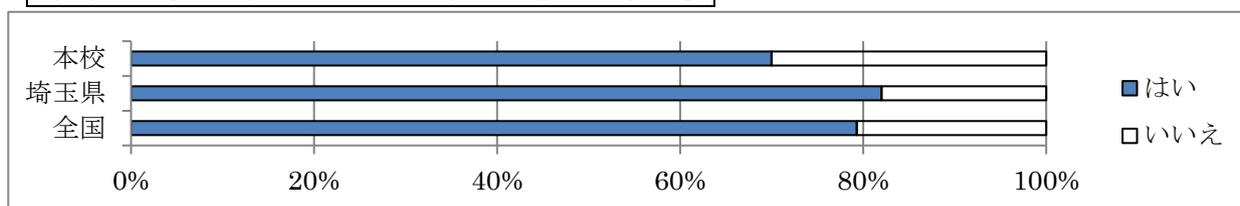
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	71.4	67.1	67.3
図形	4	50	47.8	48.2
変化と関係	4	74.3	71.0	70.9
データの活用	3	64	66.3	65.5

＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

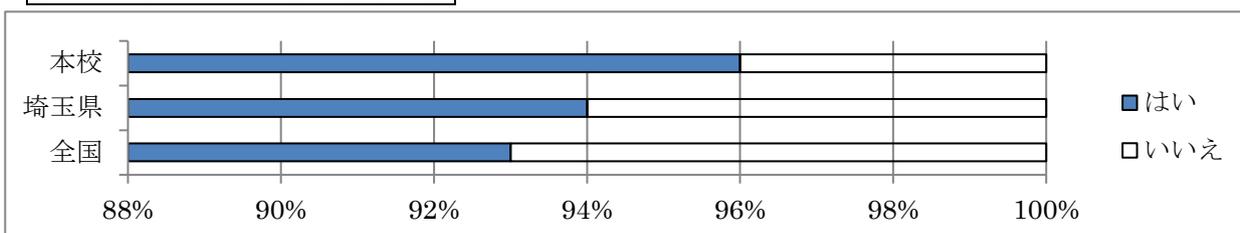
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

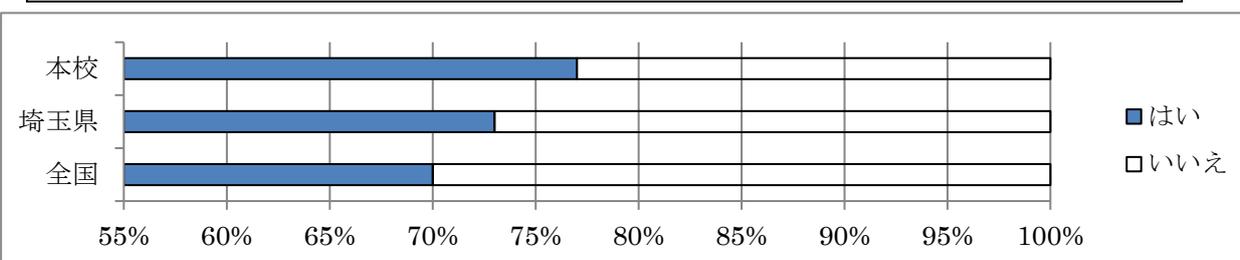
（４）自分には良いところがあると思いますか。



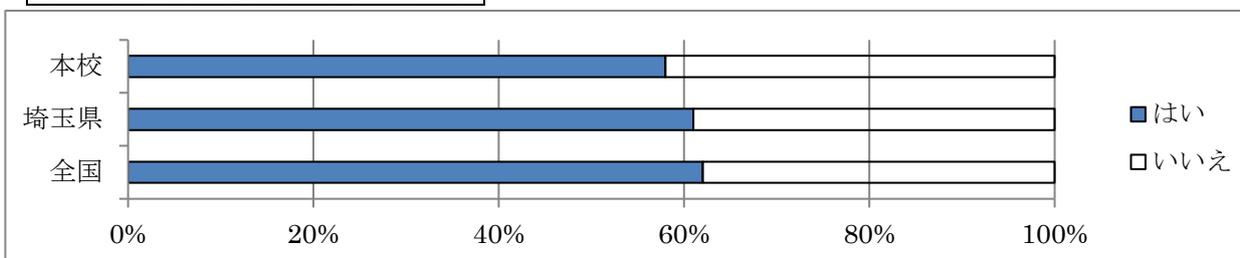
（６）先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。



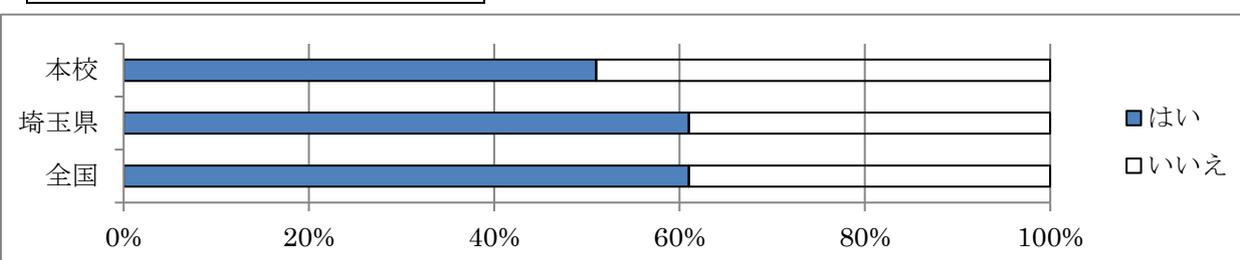
（１６）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。



（４３）国語の勉強は好きですか。



（５１）算数の勉強は好きですか。



本校の調査結果の分析・考察

<国語>

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関して、全国・埼玉県 averages を上回りました。しかし、「書くこと」に関して全国・埼玉県の平均を下回りました。

【正答率の高かった問題】

【問題3の三】

日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる。

4	3	2	1		
ア	ア	ア	ア		
申した	おっしゃった	申した	おっしゃった		
		イ	イ		
	イ	お聞きになって	うかがって		

聞きのがしたことを相手に確かめるとき

〇〇さんが ア ことを、もう一度 イ いいですか。

【谷さんのノートの一部】

三 谷さんは学習をふり返り、インタビューをするときの敬語の使い方について、ノートにまとめています。次の「谷さんのノートの一部」の ア と イ に入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【正答例】

・ 1 と回答しているもの。

【△分析】

△敬語を使う場合、尊敬語や謙譲語などの役割や必要性を自覚し、相手と自分との関係を意識しながら、相手や場面に応じて適切に使うことが大切です。谷さんは、学習を振り返り、インタビューをするときの適切な敬語の使い方についてノートにまとめています。ここでは、尊敬語と謙譲語について理解していることが求められています。

【正答率の低かった設問】

【問題1の二】

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。

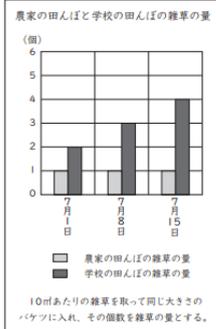
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと イくらべてみました。 ウきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしゅうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書くようにしています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

【カード①】

6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。
・どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

【川村さんの考え】

雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。



川村さん

1 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、【川村さんの考え】と川村さんが選んだ【カード①】から【カード⑤】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましよう。

【正答の条件】

次の条件を満たして解答している。

- ① 学校の米作りの問題点について、以下のことを書いている。
 - a 【川村さんの文章】のグラフから分かること
 - b 【カード④】から分かること
- ② 問題点の解決方法について、【カード⑤】をもとにして書いている。
- ③ 60字以上、100字以内で書いている。

【正答例】

・グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。(100字)

【△分析と◎改善】

△自分の考えが伝わるように文章を書くには、図表やグラフなどを用いるなどして書き表し方を工夫することが大切です。川村さんは、選んだカードや自分で作成したグラフを用いて、米作りの問題点と解決方法について文章を書いています。ここでは、【川村さんの文章】のグラフと【カード④】のそれぞれから分かる学校の米作りの問題点と、【カード⑤】を基にした問題点の解決方法を、60字以上、100字以内で書くことが求められています。

◎場面に合った資料を活用して自分の考えをまとめたり、伝えたりできるような力を育てていきます。そのために、複数の資料から自分の考えや場面に合った資料を選び、選んだ理由を述べたり、書いてまとめたりする機会を設けていきます。

<算 数>

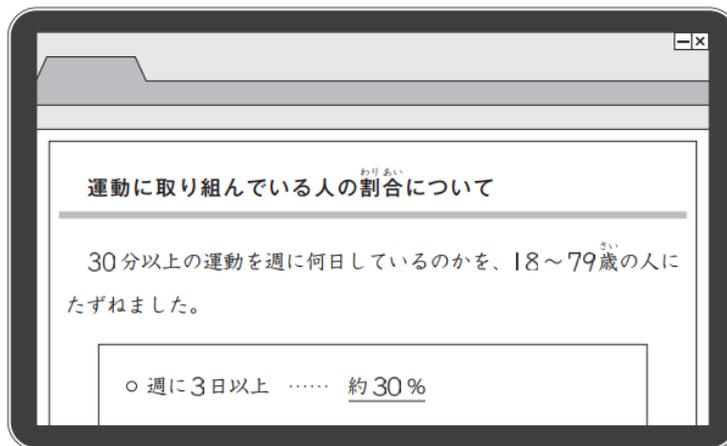
「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」に関して、全国・埼玉県の平均を上回りました。しかし、「データの活用」に関して全国・埼玉県の平均を下回りました。

【正答率の高かった設問】

【問題4の(1)】

百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題。

あいかさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。



あいか

1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのですね。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでのの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

【正答】

ウ、エと解答している。

【△分析】

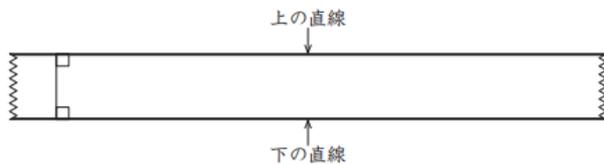
△示された割合から、基準量を具体的に決めて、それに対する比較量を捉えることができるようにすることが大切です。本設問では、百分率で表された割合について理解しているかどうかを調べています。ここでは、百分率で表された割合である30%について、100人や10人を基準量としたとき、それらに対する比較量を捉えることが必要になってきます。

【正答率の低かった設問】

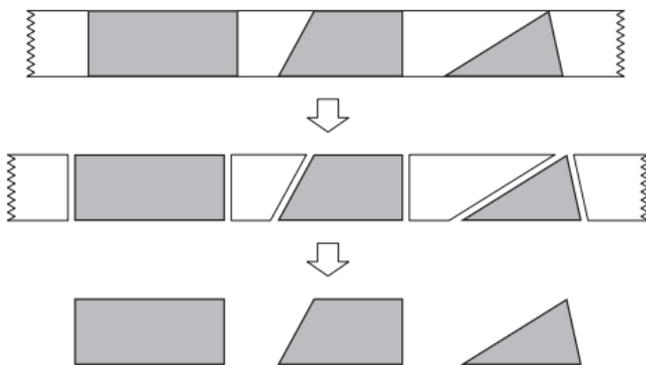
【問題2の(4)】

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題。

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線
は平行で、テープのはばはどこも等しくなっています。

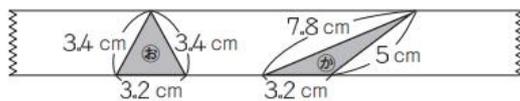


えいたさんたちは、下のようにテープを直線で切って、いろいろな図形を
つくりました。



切り方によって、いろいろな図形ができますね。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの
三角形をつくりました。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

◎基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにしていきます。授業では、
図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、
その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことを目指して
いきます。

【正答の条件】

番号を3と選び、次の①、②の全
てを書いている。

- ①三角形と三角形の底辺の長さ
が等しいことを表す言葉や数
- ②三角形と三角形の高さが等し
いことを表す言葉

【正答例】

(番号) 3

(わけ)

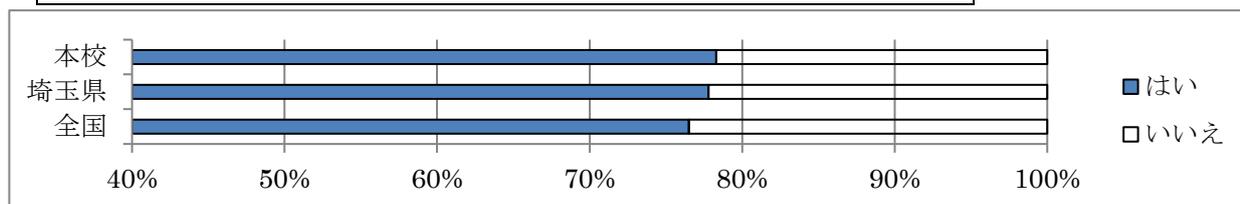
三角形の面積は、底辺×高さ÷2
で求めることができます。㊸と
㊹の底辺は、どちらも3.2cmなの
で等しいです。㊸と㊹の高さは、
テープの幅がどこも同じ長さな
ので等しいです。だから、㊸と
㊹の面積は等しいです。

【△分析と◎改善】

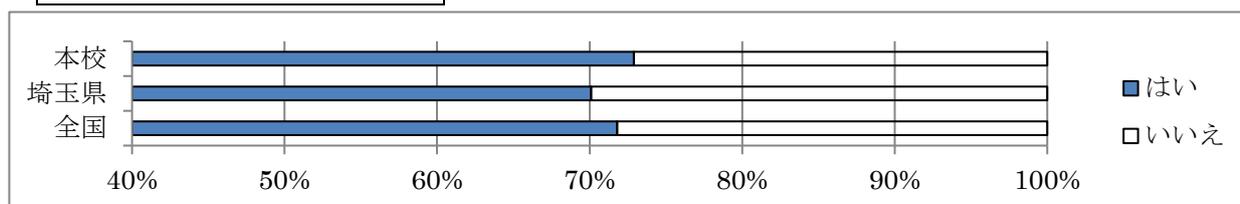
△本設問では、ある辺を底辺とし
たときに高さが等しくなる三
角形について、底辺と面積の関
係を基に面積の大小を判断し、
その理由を言葉や数を用いて
記述できるかどうかを聞かれ
ています。ここでは、二つの三
角形の面積の大小を判断する
ために、平行な二つの直線の幅
はどこでも等しいことに着目
し、示された三角形の底辺と高
さを適切に捉えることが必要
になってきます。

<質問紙調査から>

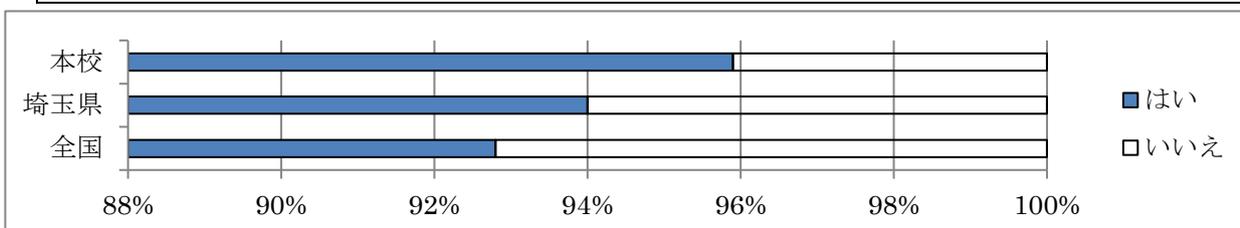
(13) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



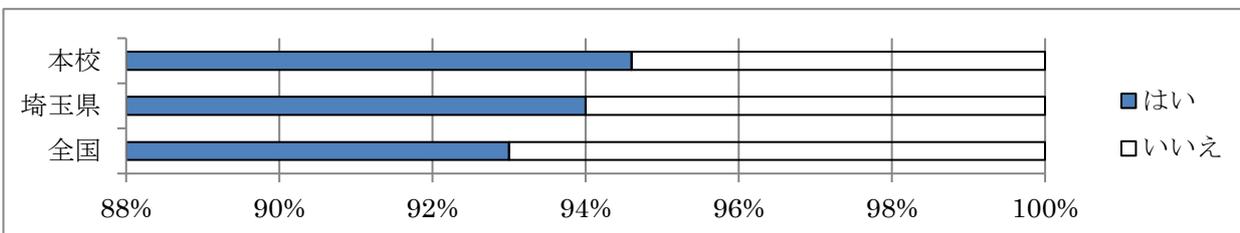
(24) 読書は好きですか。



(46) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



(54) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



【分析と考察】

6年生の特徴として「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思ひ」「読書が好き」な児童が多くなっています。この傾向から、様々な種類の本を読み、自分の知識を増やしている児童が多いことがうかがえます。

「国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と思っている児童の割合が高い傾向になっています。しかし、「国語・算数の授業が好きですか」の質問では、県平均及び全国平均を若干下回っています。児童が楽しいと思える授業改善を行い、主体的で対話的な授業づくりを行っていきます。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和5年5月10日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
言葉の特徴や使い方	17	71.1	68.0	14	73.5	69.3	14	73.5	71.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	6	72.1	64.2	7	65.3	61.3	3	52.9	47.7
話すこと・聞くこと・書くこと	5	63.1	51.3	4	63.1	60.0	5	56.3	51.3
読むこと	3	57.9	57.5	6	52.6	51.0	9	57.5	53.8
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
数と計算	13	75.1	71.7	14	69.5	63.4	13	61.1	60.2
図形	6	60.3	56.5	8	70.0	61.3	8	63.0	60.3
4年測定 5、6年変化と関係	6	64.9	56.5	6	76.5	64.2	7	56.0	53.9
データの活用	6	70.0	61.7	4	68.7	63.4	5	49.3	44.3
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑↑		↑↑	↑↑

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段: 県の達成率、下段: 本校の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	92.0	93.1	93.9
		98.5	98.4	94.7
	② 授業の開始時刻	90.6	91.9	94.4
		87.7	95.2	88.0
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	82.1	81.8	85.8
76.9		77.8	84.0	
④ 整理整頓	79.3	76.4	77.1	
	67.7	79.4	73.3	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	80.3	77.4	77.7
		81.5	68.3	65.3
	⑥ 返事	90.0	88.1	87.8
		89.2	95.2	81.3
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ 正しい言葉づかい	85.7	86.6	88.8
90.8		95.2	84.0	
⑧ やさしい言葉づかい	86.4	84.7	85.1	
	93.8	95.2	78.7	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	84.6	85.3	86.6
		87.7	92.1	80.0
	⑩ 話を聞き発表する	80.9	77.3	74.4
		80.0	82.5	72.0
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	86.7	84.7	85.7
80.0		95.2	82.7	
⑫ 掃除・美化活動	91.8	89.2	87.9	
	93.8	87.3	84.0	

本校の学力向上の取組

☆1 主体的な学びの充実

- (1) 学習課題の提示からまとめ・振り返りまでの流れを示し、児童が主体的に目的意識をもって活動できる授業をします。
- (2) 授業の流れや内容がわかり、学習の終わりに振り返りができる板書をします。
- (3) 授業では、自分で問題の解き方を考える自力解決の時間を大切にします。

☆2 学習形態の工夫

- (1) 一人、ペア学習、グループ学習、一斉学習等の形態で児童同士が意見交流する時間を確保します。自分と友達の考え方の比較を通し、いろいろな考え方があることに気づき、学習の幅を広げられるようにします。
- (2) ティームティーチング指導や少人数指導を積極的に行い、一人一人により細やかな支援ができるようにします。

☆3 個に応じた指導の充実

- (1) 単元開始前にレディネステスト（算数）を行い児童の理解度を確認し、学年や単元・課題に応じた習熟度別指導、少人数指導、ティームティーチング指導の実施に活用します。
- (2) 教育指導補助員による学習サポート
理解が十分にできていない児童や、技術が十分に身につけていない児童をサポートし、学習意欲の向上を目指します。
- (3) デジタルドリルの活用
児童が自己調整をしながら学びを進めていく「個別最適な学び」を促し、自身の個性や能力を生かして学びを深めていけるように指導していきます。

■4 言語活動の充実

- (1) 授業の中で、自分の考えの理由や根拠を明らかにして、筋道立てて答えたりノートに書いたりできるようにします。
- (2) 様々な授業形態の中で、児童同士が意見交流する時間を大切にします。

■5 学習に対する態度の育成

- (1) 学習に集中して取り組むための約束として、「授業中の姿勢」「指名されたときの返事」「発表するときの声の大きさ」等の基本的なことを確実にできるようにしていきます。
- (2) ICT 機器を活用して児童の疑問や探究心を湧き立たせるような教材の活用や指導を大切にします。

授業以外の取組

☆1 家庭学習の充実

- (1) 家庭学習プランを全家庭に配付し、家庭学習を推進していきます。
- (2) 漢字・計算の繰り返しにより基礎学力の定着を図ります。
- (3) 毎日の宿題や自主学習を家庭との協力で進め、家庭学習の習慣化により、基礎学力の定着を図ります。
- (4) 帰宅後のテレビ、ゲーム、スマートフォン等を控え、読書や会話の時間を大切にする働きかけをします。

■2 業前学習・補充学習の充実

- (1) 月曜日の朝読書で読書に楽しみ、本に親しむ時間を確保し、読解力の向上を目指します。
- (2) AI 化されたデジタルドリルを活用し、当該学年の学習内容だけでなく前学年の学習内容の復習や習熟を行います。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

令和5年度 桶川市立朝日小学校学力向上プラン



あ
課題・要因を
あきらかに

めざす児童像 「豊かな人間性と自ら学ぶ意欲をもってたくましく生きる児童の育成」

改善の観点 (具体的取組)

保護者・地域の皆様へ

- ・学校や家庭など、様々な生活場面で ICT 機器を使用する機会が増えています。眼等に過度な負担がかからないよう chromebook を使用する時間について、学校でも調整していきますので、ご家庭でも引き続き、使用の時間や約束についてご確認いただければと思います。
- ・家庭学習（自主学習、宿題等）の際には、テレビを消す、机の上に学習用具以外の物が置かない等、学習環境に引き続きご配慮いただけますようお願いいたします。
- ・見守りと励まし、称賛の声掛けを今後もよろしくお願いいたします。